



福崎町立
柳田國男・松岡家記念館
〒679-2204
神崎郡福崎町西田原
1038の12
電話：0790-22-1000

企画展

民俗誌探訪!

地域の民俗に情熱を
注いだ研究者

記念館では、3月1日(土)から30日(日)まで企画展を開催します。本展では、兵庫県内のさまざまな民俗行事や信仰、祭りなどを調査してきた民俗学研究者の蔵書を紹介します。



『日本の民俗』全47巻

当館で多くのみなさんに活用してほしいというお気持ちを受け、ご遺族から寄贈いただいた書籍には、民俗学関連の研究書や雑誌、兵庫県内の民俗調査報告書や民俗誌があります。本を開くと、多数の線引きや書き込みがあり、地域の民俗と真摯に向き合い続けたようすを知ることが出来ます。



『年報 香寺町の歴史』第4号

しかし、『年報 香寺町の歴史』第4号では、「激動の百年間を人々の生活の変化を中心にして民俗学の面から考えてみたい」と記し、町史の民俗編の構想が書かれています。このように、最後まで地域の民俗文化への情熱を持ち続けていたことが読み取れます。



書籍の虫干し作業

名作著書紹介

故郷七十年を
読む

第68号では、^{かなえ}鼎が東京で医学を学ぶための援助をした人物として、柴原^{しばはら}和と股野^{まの}琢を紹介しました。

『故郷七十年』には、鼎が東京に出るために、松岡家だけでなく、頼母^{たのぼ}子講の助けがあったようであると、國男は記しています。

第67号でお伝えしたように、鼎はつらい離婚を経験します。

この経験によって、鼎はヤケ酒を飲むようになり、家が収まらなくなりますが、そして、もともと松岡家は医者だったからというところで、家と地所を売って、医者となるための学費をつくることに



柳田國男・松岡家記念館

☆☆入館案内☆☆

☆開館時間
9時～16時30分
(入館は16時まで)
☆休館日
月曜、祝日の翌日
12月28日～1月4日
☆入館料
無料

したので。さらに、鼎が育った辻川の隣の集落である井ノ口にいた人物が、頼母子講の世話人を引き受けてくれました。この人物は「四十歳を少し越えた、大変義侠心と智力」があり、「兄を信用し愛して、その役を引受けてくれたことを憶えている」と記しています。そして、「頼母子」とは、「要するに、一人の力ではとても助けられないのを、例えば十人共同して一軒の家を助ける、つまり共同して助け合うという仕組み」であり、「私の生れた松岡の家が、少なくとも二度は、非常に純粋な昔風の頼母子の恩恵に浴したように思われる」と述べています。このように鼎は、福崎の人々の後押しによって医学の道を進んだのです。



館日記

第1回福崎町柳田國男ふるさと賞の伝達式が、3月1日(土)に行われます。記念すべき第1回目の受賞者には、3名の方の作品が選ばれました。みなさん、本当におめでとうございます。

【小学生低学年の部】
高岡小学校4年
桑谷 茂里

『おみがき』が行われる



作品写真

【小学生高学年の部】
田原小学校6年
中野 剛志

「鈴の森神社について」



作品写真

【中学生の部】

福崎西中学校1年
坂本 未玖
「福崎町の宝塔祭(新町)」



作品写真